

# 科学の目で見る考古学の世界

昨年10月、下鶴遺跡（伊佐市大口下殿）で鹿児島県内初出土した銅戈（写真左）。

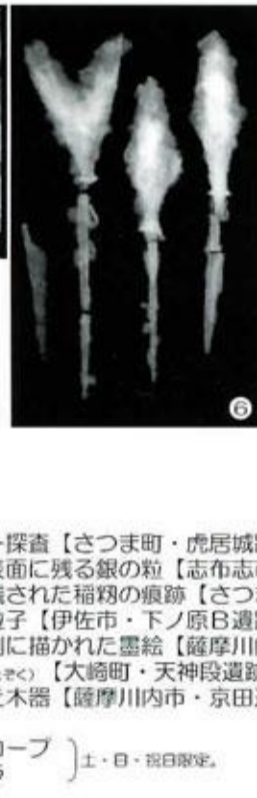
今からおよそ2,000年前、弥生時代中期のものと思われるこの銅戈の中ほどには、刃こぼれのようなあとと、そこから広がる「ひび」がありました。

この「ひび」はいつできたものか。

外見だけではわかりません。しかしレントゲン写真（写真右）を撮ってみると、内部に延びる「ひび」と、その先にほんやりと暗く映る影が見えました。

レントゲンと暗い影。なんだか病院で診察を受けているような感じですね。でも、このような診察をすることで、「ひび」だけでなく内部の状況もわかります。そしてレントゲンや成分分析などの結果をもとに、この銅戈を後世に伝えるための保存処理をしていきます。

今回の展示では、理科好きの子どもたちを対象に、考古学の世界で科学（理科）的な見方や考え方がどのように役立っているかをわかりやすく解説します。展示を見ながら、この「ひび」はいつできたのか、一緒に考えてみましょう。



- 1 現地調査 地中レーダー探査【さつま町・虎居城跡】
- 2 光学顕微鏡画像 銅製耳環の表面に残る銀の粒【志布志市・上苑A遺跡】
- 3 光学顕微鏡画像 土器表面に残された稲穂の痕跡【さつま町・尾付野山遺跡】
- 4 電子顕微鏡画像 赤色顔料の粒子【伊佐市・下ノ原B遺跡】
- 5 赤外線画像 土師器の外側に描かれた雲絵【薩摩川内市・川骨遺跡】 撮影：奈良文化財研究所
- 6 レントゲン画像 雁又鍔（かりまたさく）【大崎町・天神段遺跡】
- 7 保存処理 保存処理した木器【薩摩川内市・京田遺跡】
- 8 分析機器 マイクロスコープ 土・日・祝日限定。
- 9 分析機器 赤外線カメラ
- 10 分析機器 走査型電子顕微鏡
- 11 分析機器 蛍光X線分析装置
- 12 分析機器 透過型X線撮影装置（レントゲン）

平日に、埋蔵文化財センターで見学可能。

## 理科社会 夏休みの自由研究にも使える!



- ◎ 徹底比較！縄文時代の火山灰と平成の火山灰
  - ◎ どきどき・縄文土器の文様はどうやって作る？
  - ◎ ベンガラ（赤色顔料）を作ってみよう
  - ◎ 動かめ証拠！土器の表面にコメが！ムシが！
- ほかにもおもしろヒントがたくさん!!

